

第2章 緑区の皆さん

Hello Baby!

緑区制50周年の
記念の年に
誕生した

平成

31

年

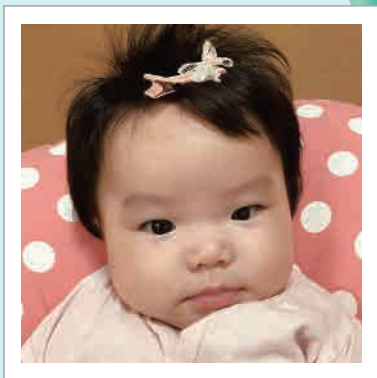
令和

元

年

生まれの

赤ちゃんを紹介します

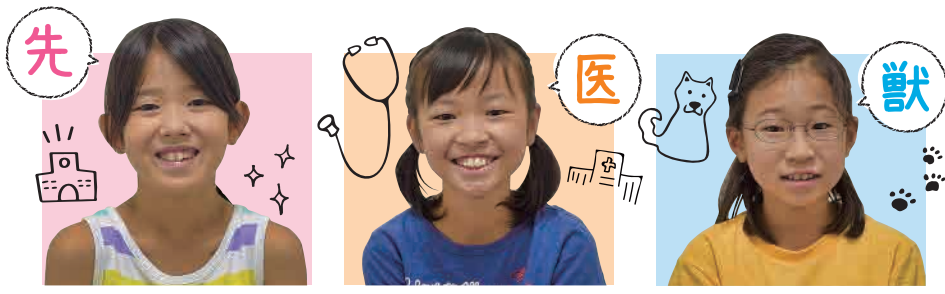


次のページからは
緑区の皆さんに
聞いた将来の夢
を紹介します!

Good!



タンクの運転手
さんになりたい!



小学校の先生

医者

獣医師



建築士

電車の運転手

保育園の先生

看護師

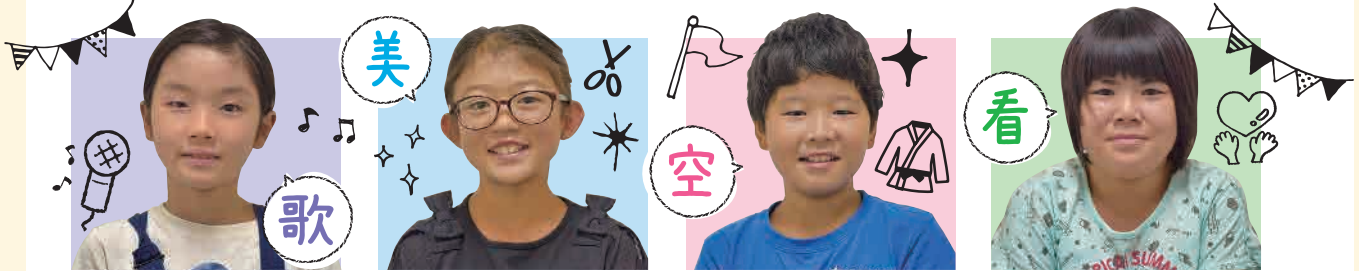


医者



マンガ家

緑区の小学生に聞いた
将来の夢
 50周年記念イベント「Mini Mini Midori」
 実行委員の皆さんに「将来の夢」を聞きました。



歌手

美容師

空手の選手

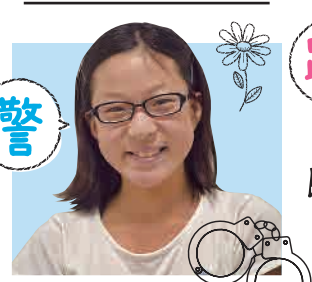
看護師



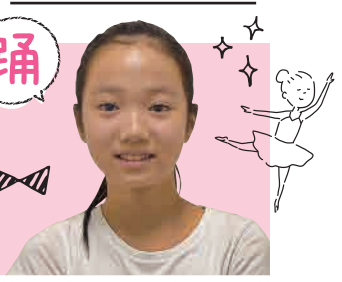
気象予報士



看護師



警察官



バレリーナ



YouTuber

ロボットクリエイター

ゴルファー

カメラマン

緑区の中学生・高校生に聞いた

将来の夢

50周年記念イベント

「緑区制50周年記念中学生合唱団」

団員の皆さんに「将来の夢」を聞きました。

My Dream

考古学者 / 中3

My Dream

小説家 / 中3

My Dream

駅弁の開発 / 中3

My Dream

卓球のチーム ワールドカップに出たい!
/ 中2

My Dream

女優 (モデル) / 中2

My Dream

心理カウンセラー
/ 高1

My Dream

歌手 / 中3

My Dream

誰かを助けられる仕事
/ 中3

My Dream

エンジニア / 中2

My Dream

塾の講師 / 中3

My Dream

保育士 / 中2

My Dream

ベビーシッター、家政婦
/ 中2



My Dream

声優 / 中2

My Dream

整体師 / 中2

My Dream

シンガーソングライター
/ 中3

My Dream

教師 / 中1

My Dream

幸せに暮らす / 中2

My Dream

パイロット / 中1

My Dream

公務員 / 中2

My Dream

空港で働く / 高1

My Dream

歌手 / 中2

My Dream

獣医師 / 中1

My Dream

まだ見つかっていません
/ 中1

My Dream

女優 / 中2

緑区の大学生に聞いた 将来の夢

緑区内にある4つの大学、横浜創英大学、昭和大学、東洋英和女学院大学、東京工業大学に通う皆さんに将来の夢をインタビューしました。



一番身近な保育者に

柴崎芽生さん(横浜創英大学3年)

私が幼稚園の時、自然な形で友人たちの輪に入れるように教諭が手を引いてくれました。そのおかげで、たくさんの友人と仲良く幼稚園生活を送ることができました。私も、誰も一人ぼっちにしない保育者になりたいと思っています。そして、子どもだけでなく、保護者などとも積極的に関わり、一番身近で、一人ひとりの気持ちに寄り添える保育者になることが私の夢です。夢の実現に向けて、人との接し方など毎日学びを深めています。

患者さんにとことん寄り添う理学療法士に

三樹亮太さん(昭和大学3年)

バレーボール部で怪我の多かった高校時代、理学療法士が親身に向き合ってくれました。自分もそうだったように、患者さんはたくさんの不安を抱えています。そんな不安を1つ1つ解消して、患者さんにとことん寄り添える理学療法士になることが私の夢です。細かい声かけや気遣いも患者さんの不安を大きく和らげると 생각합니다。幅広い医療知識を学ぶことはもちろん、相手の気持ちに気が付ける人になれるよう、日々学びを深めています。



映像通じて、多様な世界を伝えたい

成田絵未里さん(東洋英和女学院大学3年)

大学入学後、日本人が全くいない環境に飛び込みたいたと、アイルランドに語学留学をしました。様々な人と仲良くなり、多様な考え方を学ぶことができました。様々な世界があることを映像で多くの人に届ける仕事に就くことが私の夢です。2019年の学園祭では、実行委員長として学園祭の魅力を積極的に伝えるなど、挑戦の毎日を送ることができ、良い経験となりました。今後も、やってみたいと思ったことはすべて挑戦する姿勢を持って夢を追いかけていきたいです。

病気で困っている人の手助けを

高木康雄さん(東京工業大学生命理工学院修士課程1年)

子どもの頃から化学に興味がありました。大学院でも研究を続けています。将来は、現在の研究を生かして、製薬会社で薬の開発に携わりたいと考えています。自分の作った薬で、病気になって困っている人を助けたいという思いがあります。薬を通じて、健康な人が増えてほしいです。その結果、多くの人々が当たり前楽しく生きることができる世の中になることを願っています。



私たち、 緑区制50周年の年に 結婚しました!



～お二人に質問!～



磯貝さんご夫妻



原田さんご夫妻

Q.どんな家庭にしたいですか?

A.笑いの絶えない家庭

Q.50年後どうなっていたいですか?

A.お互いを思いやる気持ちを忘れず、仲良しでいたい!

Q.これから結婚される方へのメッセージを!

A.緑区を幸せいっぱいの方にしましょう!

Q.これまでで一番のイベントは何ですか?

A.今日!入籍したこと!

Q.どんな家庭にしたいですか?

A.何年経っても家族みんなでお出かける仲良し家族

Q.緑区の印象は?

A.安心安全住みやすい☆



徳田さんご夫妻

Q.変わらないでほしいところはどこですか？

A.誠実なところ

Q.どんな家庭にしたいですか？

A.恋人のような家庭

Q.緑区の印象は？

A.都会ながら、キジバトとかセミがいて和む



岩崎さんご夫妻

Q.これまでで一番のイベントは何ですか？

A.相手の実家への挨拶も兼ねた旅行

Q.50年後どうなっていたいですか？

A.おじいちゃん、おばあちゃんになっても今と変わらず幸せに手をつないで散歩する

Q.緑区の印象は？

A.緑が多くて癒されます。交通のアクセスもよく住みやすいです。



深堀さんご夫妻

Q.一番感謝していることは何ですか？

A.私を好きになってくれたこと

Q.50年後どうなっていたいですか？

A.たくさんの孫に囲まれたパワフルなおじいちゃんとおばあちゃん

Q.これから結婚される方へのメッセージを！

A.結婚は、勢い



区民の皆さんと協働する健康づくり

緑区では、区民の皆さんが生活習慣の改善や生活習慣病の重症化予防に取り組むことで、健康寿命を延ばすことができるよう、地域の関連団体の皆さんと協働しながら、健康づくりの啓発に取り組んでいます。

緑区保健活動推進員の活動（思いやり、健康づくりの日）

保健活動推進員は、自治会から推薦を受けて、地域の健康づくりの推進役・行政の健康づくり施策のパートナー役として、市民の健康づくりを推進するために地域でさまざまな活動を行っています。

緑区では200人以上の保健活動推進員が、区民の皆さんの生涯にわたる健康づくりや生活習慣病の予防のために、区役所と協働して活動をしています。研修を通じて健康づくりの正しい知識を身に付け、自身や家族の健康づくりに取り組むとともに、各地区で実施する行事（健康チェック、講演会、体操教室等）の企画立案・実施・参加・協力等を行い、地域の健康づくり活動に取り組んでいます。

緑区保健活動推進員の皆さんが大切にしてきた活動に『思いやり、健康づくりの日』があります。これは緑区制30周年を記念して平成11年に開始された事業で、おむね毎月1回、区役所で無料の健康チェックを行っています。区民の皆さんの生活習慣を見直す機会としてぜひ活用してください。

各地区でも、地域の方が楽しく健康づくりに取り組めるよう、地域に根差した幅広い健康づくり活動を推進しています。



緑区食生活等改善推進員の活動（緑をたっぷり召し上がれ事業）

食生活等改善推進員（愛称ヘルスマイト）は、「私達の健康は私達の手で」を合言葉に食を中心とした健康づくりを広める全国的なボランティア団体です。「運動」「休養」とともに健康づくりのための重要な要素として「食」があり、緑区でもさまざまな食についての取組を行っています。

とりわけ緑豊かな区の特徴を活かした『緑をたっぷり召し上がれ事業』は、平成16年度からヘルスマイトの皆さんと協働で進めています。

野菜キャンペーンや区民まつり、ウォークイベントといったさまざまな機会でも、健康に配慮した新鮮な地場産野菜を使った簡単・おいしいレシピの紹介や楽しいゲームで1日の望ましい野菜の量を学べる体験など、食



野菜キャンペーンイベント風景

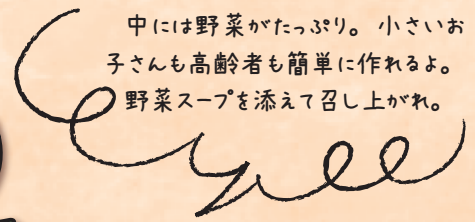
についての普及・啓発を行っています。

また、今年はヘルスマイト結成50周年を記念し、今までの講習会等で好評だったレシピや会員のおすすめ品を1冊にまとめたレシピ集を作成しました。

区民の皆さんの日頃の一品になればと期待しています。

ヘルスマイト結成50周年レシピ集から、簡単おすすめのおいしいレシピを紹介するよ!

中には野菜がたっぷり。小さいお子さんも高齢者も簡単に作れるよ。野菜スープを添えて召し上がれ。



レシピ集については

緑区 ヘルスマイト50周年レシピ集

で検索

レシピ紹介

デンバートースト



【材料：1人分】

- 食パン (6枚切り)1枚
- 卵.....1個
- ツナ缶 (小)1/3缶
- スライスチーズ1枚
- キャベツ30g
- ピーマン10g
- サラダ油小さじ1
- バター大さじ1/2(6g)
- 塩・こしょう少々
- 添え野菜適宜

【作り方】

- ①食パンは外側1cm残し、くり抜く。
- ②卵は溶きほぐしておく。
- ③油切したツナをほぐす。
- ④野菜を千切りにする。
- ⑤フライパンにサラダ油を熱し、①の食パン (耳の方) を置き、パンの内側に卵を流し入れる。その後、③と④を入れる。
- ⑥塩・こしょうをし、スライスチーズをのせ、残りのパンでふたをする。
- ⑦フライ返しで少し押さえながら焼き、卵に火が通ったらバターをのせて裏返す。焦げ目がつくまで焼く。
- ⑧⑦を斜めに切り、皿に盛り野菜を添える。



クローズアップ



障害児・者を支え共にあゆむ皆さん

緑区の25年前の様子とこれからへの想い

港北区からの分区により「緑区」誕生から、人口増加の為再び青葉・都筑・緑と3分区となつてすでに25年。当時は「緑福祉ホーム」が活動拠点として1館あるのみでした。

通所施設、グループホーム等の建設に皆力を注ぎ、少しずつはありましたが障害児者も地域の中で自然な形で暮らしたい、との思いが実りつつありました。

中途障害者地域活動センター「緑工房」の開所もこの当時でした。更には「ハーモニーみどり」建設へと日々検討を重ねた事を懐かしく思い起こして居ります。

変わらぬ風景は中央を流れる恩田川に多数の野鳥が舞い降り、心和ませてくれます。緑区の名の通り自然豊かな、とても住みやすい街だと思つて居ります。

今、私は緑工房理事長として沢山の皆様に支えられて活動させていただいています。多くの皆様に心よりの感謝を申し上げます。そして今後共宜しく御指導お願い致します。



鈴木やよいさん

緑区肢体障害者福祉協会のあゆみ

昭和20年代の戦後の物資不足の時代、緑区には戦傷者の松葉杖をつきアコーディオンの伴奏で愛国歌謡等を歌って鉄兜に喜捨を求める場面が多く見られました。

私は結核性左股関節炎で松葉杖生活でしたが、人工骨頭手術を受けたのち相模原の障害者職業訓練所の機械製図科で製図を学び、障害者として社会人になりました。港北区の障害者グループに入会していましたが、昭和40年中頃から緑区でも障害者の集まりが必要だと動きが高まり、昭和50年11月23日に会員総数154人の緑区肢体障害者福祉協会の発会式を上げることが出来ました。

緑区内の各障害者団体の連絡協議会を作る動きもはじまり、昭和56年5月14日に緑区心身障害児者福祉団体連絡協議会が結成され、当時の緑肢体協の会長である泉美千男氏が初代の心身連会長になりました。

緑肢体協は平成30年で解散しましたが、緑区での障害者福祉の先駆けとしての役割を務めることが出来たのではないかと考えております。



遠藤秀夫さん

緑区の障害のある皆さんの作品・施設活動紹介の展示（障害者週間イベント）



緑区では、障害のある皆さん、ご家族の皆さん、関係機関・団体が連携して、地域でさまざまな支援を行っています。長年に渡り、緑区内のさまざまな障害児・者の団体さんが集まって問題を話し合ったり親睦を図ったりする「緑区心身障害児者福祉団体連絡協議会」（心身連）の歴代会長の皆さんにお話を伺いました。

■みどり地域活動ホームあおぞら建設の思い出

平成15年みどり地域活動ホーム建設委員会が立ち上がり、私は資金担当となりました。横浜市では各区で建設費の一部を寄付で集める規定になっていて一寸気持ちが沈む思いもありました。翌年4月に活動を始め、駅で募金の呼びかけをしたり、地域開催の催しものでご寄付を願ったりしていました。

そんな時、連合自治会の方がチャリティーゴルフ大会を計画して下さい、多くの方の参加がありました。当日、区の職員の方、私共役員は4時に緑区役所前に集合しバスで東富士の会場へ参り、お手伝いをしました。おかげさまで多額のご寄付をいただき、とてもうれしかったです。

緑区の皆様は福祉にご理解が有り、その後次々と個々のご寄付をいただき思いがけなく早く目的に達する事が出来ました。本当に有難うございました。その後障害者と近くの方々の活発な利用で、今、横を通る時当時の事が思い出されます。困った時、どなたでも相談出来ます。ぜひお立ち寄り下さい。



水嶋路子さん

■緑区に守られてきた息子の子育て

令和元年に26歳になる息子が重度知的障害を伴う自閉症だと分かったのは、緑区に転居した翌年の平成8年でした。不安でいっぱいだった私を支えてくれたのは、十日市場福祉ホームで活動されていた訓練会「さくらんぼ会」でした。さくらんぼ会は現在も活動されていて歴史は50年近くになります。

息子は平成12年に横浜市立いぶき野小学校に個別支援級第1期生として入学しました。入学時は1クラス2人、卒業時には4クラスでした。

平成18年には県立みどり養護学校中学部に入学しました。みどり養護学校には、昭和53年の設立時に東本郷町自治会会長の守賀四郎様が「本郷神社跡地なら神々も快く児童を見守って下さる」と、地域の方々を説得し多大なご尽力を頂いた記録が残っています。

障害児・者が長く地域で暮らしてきた緑区で息子を育てられたことに心より感謝しています。これからも障害のある方もない方もお互いが思いやりを持ち、信頼し協力し合える緑区であることを願っています。



市木智子さん

緑区の障害のある皆さんの作品・施設活動紹介の展示（障害者週間イベント）



障害者が通う事業所の自主製品販売会「みどりハートフルマーケット」





子どもたちの学びを支える皆さん

横浜市では、生まれ育った環境によって進路を左右されることなく、子どもたちが将来自立した生活を送れるようになることをめざし、基本的な学習習慣等を身につけてもらえるよう「寄り添い型学習支援事業」を実施しています。

地域で子どもを支える取り組みは、緑区内でも広がっています。

地域でそれぞれ学習支援活動をされている皆さんに、活動への思いについてインタビューしました。


1
アシエーション
てらこや




高橋さん 酒井さん

小中学生の算数・数学の学習支援をしています！
挑戦してあきらめないことが大事だということを子どもたちに伝えたい。一生懸命努力した結果、成長できたと実感してもらい、自己肯定感をつけてもらいたいとの思いを持ち取り組んでいます。

2
かもい
なかも塾



鴨居地域ケアプラザ
雨宮地域活動交流コーディネーター

中学生を対象に経済的事情や学力不足を補い、将来納税者として社会参加できるよう学習支援を行い、若者を育成支援しています。
勉強の習慣がつき希望した進路に進んでくれたこと、子どもたちの1年間の成長を見られることにやりがいを感じています。

3
よりみち
学習広場




高林さん

東本郷エリアの小中学生を対象に学習支援をしています！
子どもと同じ目線を大切に、勉強だけでなく遊びを通して、応援団のつもりで子どもに寄り添うように接しています。
年に数回イベントを実施して、普段の活動の中でも学習支援の敷居を低くするよう工夫しています！



活動場所


4
ひまわり
の会



本井さん

言葉の壁に苦勞し、学校で孤立しがちな外国につながる子ども達の学習サポートや居場所作りをしています。
「小学生は楽しく、中学生も楽しく！先生達もパワーをもらって元気に楽しくいきいきと！」との思いを持って活動しています。


5
こどもの居場所
サンサン

本間さん 林さん

小学生対象に宿題を中心に学習のサポートをしています。
特別な学習の場ではなく、宿題の支援や遊びを通じて地域の子どものが気軽に来て、「子どもたちが自分から進んで宿題をし、自ら考えるようサポートする」ことを目的とし、地域の大人が見守れる居場所を目指しています。

6
ミドリ
んペンきょう会



横川さん

ミドリんペンきょう会では、中・高校生を対象に学習支援を行っています。人と人とのつながりの中での多様な体験を通じ、自立に向かうための支援を行うことを目指して「自己肯定感や社会性を育む関係性づくり、体験的な学び」を大切にしています。
また、子どもだけではなく保護者も含めた支援を心がけています。

クローズアップ



高齢化社会と共にあゆみ、活動する皆さん

緑区の高齢化を支える民生委員・児童委員



(令和元年6月撮影)

現在、緑区では高齢者やひとり暮らしの皆さんが安心して暮らせるよう、220人余りの民生委員・児童委員が地域で活動しています。

民生委員は、非常勤特別職の地方公務員で、全ての民生委員は児童委員も兼ねているため、「民生委員・児童委員」といいます。

民生委員・児童委員は住まいの近くの担当区域を持っています。ボランティアで、地域の身近な相談相手として介護や子育てなど福祉についての相談に乗り、利用できる福祉サービスなどの情報を提供したり行政や関係機関を紹介したりする「つなぎ役」を担っています。



生活支援ロボットについて学ぶ



盲導犬について学ぶ

緑区民生委員児童委員協議会では、さまざまな相談に柔軟に対応するための知識の習得や、支援が必要な方に寄り添った支援ができるよう、福祉関連施設の視察や講演会等の研修を毎年企画し実施しています。

『小さな気づき 寄り添う心 頼れる地域の「つなぎ役」』をモットーに、緑区の民生委員・児童委員は、これからも高齢化が進んでいく社会を力強く支えていきます。

クローズアップ



ペットとの暮らしを支える皆さん

昭和51年に緑区鴨居で開業されて以来、長年にわたり地域の動物病院として多くの飼い主さんから信頼を寄せられている、緑区獣医師会 おくだ動物病院院長 越久田健先生にお話を伺いました。

■ 開業当時のこと

最初に開業したのはもう少し竹山団地に近いところ。そこで3年やって、今の場所に移りました。当時、動物病院の周りは更地とか畑ばかりで、横浜線の鴨居駅前周辺の街並みに商店街が集中していて、少し離れると竹山団地と笹山団地、そして古くからの住宅と新しい一戸建ての住宅地域があった。



鴨居に建設中のおくだ動物病院

この辺りは静かで緑も多く、人が住む環境としてすごくよい場所だと感じて、将来的に家が増えて人が多く住む町になるかなと思って現在の場所に住むことになった。

この辺りは静かで緑も多く、人が住む環境としてすごくよい場所だと感じて、将来的に家が増えて人が多く住む町になるかなと思って現在の場所に住むことになった。

当時の緑区に、動物病院の数は多くなかった。犬・猫など小動物だけを対象とした動物病院をやっている先生はまだ少なく、牛や豚も診ている先生が多かったようだね。

■ 緑区のペットの移り変わり

開業当時は牛や豚を飼っている場所もあったようで、印象に残っているのは「牛がお腹を壊しているから薬がほしい」と訪ねてきた人がいたことかな。

ペットは犬が多く猫は少なかった。この頃は団地では犬・猫は飼えなくて、小鳥を飼っている人が多かった。あとモルモット、ハムスターとか。

犬は、広い家が多かったから敷地内で自由に放して番犬として飼っていることが多かった。犬種は柴犬や雑種が多かった。猟をやる人もいて、ポインターとかセッターを飼っている人もいた。

昔は動物に対しては病気の予防という考え方がまだ少なく、病気がかなりひどくなってから連れてくるような飼い主さんも多かった。

今では、犬と猫の数が半々か猫の方が多くなって

きた。うさぎも多くなったね。犬は番犬の役割は少なくなって、室内で飼いやすい小型犬が多くなってきている。大型犬でも室内で飼うことが多くなったね。

昔も今も飼い主がペットをかわいがることは変わらないけど、ただ単に飼っているという時代から、今は家族の一員という時代になったね。だから、飼い主は医療費をかけるし、予防もしっかりやるようになったようだ。

■ ペットと暮らすこれからの緑区

緑区は、散歩できる場所が多いよね。緑が多いし、公園も多くある。鶴見川沿いとか、四季の森公園とか歩道も広くできているしね。さらに環境整備がすすむといいね。



人も動物も植物も一緒にという自然との共存、それは大切なことかなって思う。

それと、集合住宅も含めてどこでもペットが飼えるような環境が広がるといいね。そのためには飼い主がしっかりしつけをし、社会のルール、マナーを守らないといけないね。

動物を飼うことは子供のためにはすごくいいと思う。動物を飼うと愛情を与えるってことを覚えるんだよね。一緒に叱られて仲間意識ができたりね。動物が死んじゃうってこと、そういう生とか死とかってものを近くで見ると感じることも大切だと思う。

あとは、自分で面倒がみられる範囲の数で飼うこと。例えば、災害時に避難するときに連れていける数までにするとかね。それが徹底されていけばいいな。飼い主同士もコミュニケーションを取って、ペットも社会性を身につければ、避難するときにも絶対楽だと思うんだよ。そういう広がりが増えてくればもっと飼いやすくなってくると思うよ。

コラム

緑区の木・緑区の花

平成6年11月に、緑区から青葉区が分区したことを記念して、区の木を「カエデ」、区の花を「シラン」と制定しました。



カエデ

新治市民の森のカエデ



カエデの木は区役所入口の右脇の花壇にも植えられています。



シラン



ミドリンのほっぺはシランの花びら。服の胸元は「カエデ」と「ミ」の文字がデザインされています。

シランは、毎年5月ごろになると、緑区役所のカエデが植えられている花壇に花を咲かせます。